# 付記

## 観光研究

ここでは、日本の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

### (1) 日本国内の観光関連学会

2024年8月時点で、日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含み観光研究を行う学会は、12団体ある(表 付記-1)。なお、総合観光学会(2001年設立)は2023年4月より日本観光学会に合流した。

このほか、「日本学術会議協力学術研究団体」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会(2002年設立)、日本フードツーリズム学会(2009年設立)、国際観光医療学会(2010年設立)、ロングステイ観光学会(2016年設立)等がある。

#### ①全国大会

全国大会の統一テーマを見ると、日本観光学会では“ポスト・コロナの観光－課題と展望－”、日本レジャー・レクリエーション学会では“レジャー・レクリエーションとウエルネス”、余暇ツーリズム学会では“ウェルビーイング実現のための余暇ツーリズム”、日本ホスピタリティ・マネジメント学会では“観光工学が支えるホスピタリティ・マネジメント”、日本観光ホスピタリティ教育学会では“ポストコロナのグローバル人材育成を考える”、観光情報学会では“AI革命と観光の未来”等が設定されている。

#### ②機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計14誌(日本語13、英語1)。2023年度に発行された機関誌・学会誌で設定されていた特集テーマには、“これからの観光に求められるDXと人材”(日本観光研究学会)、“観光情報と自然言語処理”(観光情報学会)、“観光研究とメディア文化研究との交差点”(観光学術学会)、“観光マーケティング研究の新しい動き”(観光学術学会)等があった。

### (2) 大学・大学院

2023年度、「観光」、「ツーリズム」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は46、大学院は11であった(表 付記-2)。

日本人のみならず世界100以上の国・地域からの留学生が学ぶことで知られている立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)は、2023年度、従来のアジア太平洋学部、国際経営学部に加えて、新たにサステイナビリティ観光学部を開設した。

同学部では、「持続可能な社会」と「観光」について教育・研究を行い、現代社会が直面しているさまざまな地域課題や地球規模の問題の解決に貢献できる人材を育成。「環境学」、「社会起業」、「観光産業」など9つの専門科目群を設置、「理論と実践」と「主体的な学び」を大きな特徴としている。

**表 付記-2　日本の観光関連大学・大学院の数**

| | 大学 | 学部 | 学科 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 46 | 19 | 46 | 11 |
| 2022年度 | 45 | 18 | 45 | 11 |
| 2021年度 | 45 | 17 | 44 | 11 |

(注) 大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」、「ツーリズム」、「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。

資料:文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学のウェブサイトをもとに(公財)日本交通公社作成

### (3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2023年度の科学研究費(以下、科研費)助成事業の「観光学関連」(小区分80020)等における新規採択は78件(採択後辞退を除く)で、研究種目の内訳は、基盤研究(B)11件、基盤研究(C)51件、若手研究15件、特別研究員奨励費1件であった(表 付記-3)。配分される科研費の合計は約4億2千万円、その内訳は、100万円未満が1件、500万円未満が66件、1千万円未満が2件、5千万円未満が9件となっている。

研究のキーワードは、「観光」が6件、「持続可能な観光」が4件、「観光まちづくり」が3件であった。「コンテンツツーリズム」、「デジタルノマド」、「ポストコロナ」、「メタバース」、「ユニバーサルツーリズム」、「レジリエンス」、「ワーケーション」、「持続可能」、「再訪意向」等が2件で続く。

新規採択件数を研究機関別に見ると、12大学(大分大学、金沢大学、関西大学、芸術文化観光専門職大学、國學院大學、東京都立大学、広島大学、法政大学、明治大学、山口大学、山梨大学、立命館アジア太平洋大学)で2件ずつ採択されている(表 付記-4)。

(立命館アジア太平洋大学　吉澤清良)

## 表 付記-1　国内の観光関連学会の概要

| | 学会名・会員数（2024年度） | 会長、本部/事務局、支部（2024年度） | 活動内容（2023年度） | 学会誌（機関誌）、大会論文集（2023年度） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本観光学会<br>Japan Academic Society of Tourism（JAST）<br><br>○正会員　214名<br>○準会員<br>（大学院生・大学生）　41名<br>○賛助会員　1名<br>（2024年6月時点） | 【会長】<br>大江靖雄（東京農業大学）<br><br>【本部事務局】<br>青山学院大学 社会情報学部<br>長橋透研究室内<br><br>【支部】<br>東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中四国支部、九州・沖縄支部 | ○全国大会の開催（年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等）<br>・2023年度（第116回）大会<br>・大会テーマ：ポスト・コロナの観光－課題と展望－<br>○支部会（研究発表会、支部総会）の開催<br>・東北・北海道支部会の開催<br>・関東支部会の開催<br>・中部支部会の開催<br>・九州・沖縄支部会の開催<br>○第6回学生観光プレゼン大会<br>・関東支部主催<br>○学会誌の発行（『日本観光学会誌』、年1回）<br>○学会賞の授与 | 【学会誌】<br>『日本観光学会誌』（1996年～、年1回）<br>（前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年）<br>・2023年度<br>第64号：論文2本、研究ノート5本<br>※2021年度途中からJ-STAGEでの公開開始<br><br>【大会論文集】<br>『研究発表要旨集』（年1回）<br>※学会のウェブサイトからダウンロード |
| 2 | 日本レジャー・レクリエーション学会<br>Japan Society of Leisure and Recreation Studies（JSLRS）<br><br>○正会員　250名<br>○購読会員　19団体<br>（2024年3月時点） | 【会長】<br>沼澤秀雄（立教大学）<br><br>【事務局】<br>昭和女子大学 人間社会学部<br>山梨みほ研究室内<br><br>【支部】<br>なし | ○学会大会の開催（年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、総会等）<br>・2023年度（第53回）大会<br>・大会テーマ：レジャー・レクリエーションとウエルネス<br>○研究会・講演会等の開催<br>○学会誌の発行（『レジャー・レクリエーション研究』、年3回）<br>○学会ニュースの発行（年2～3回）<br>○学会賞の授与（日本レジャー・レクリエーション学会賞（学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞）、2007年～）<br>○研究の助成（研究助成金制度、2011年～）<br>○内外の諸団体との連絡と情報の交換（世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ウェブサイトのリンク等） | 【学会誌】<br>『レジャー・レクリエーション研究』<br>（1992年～、年3回）<br>（前身『レクリエーション研究』1965～1991年）<br>・2023年度<br>第100号-記念号-：第100号記念号寄稿文3本、原著2本、研究資料2本、その他：教材制作報告1本<br><br>【大会論文集】<br>なし（学会誌に発表要旨を掲載） |
| 3 | 余暇ツーリズム学会<br>The Association for Leisure and Tourism Studies<br><br>○正会員　152名<br>○準会員　6名<br>○名誉会員　3名<br>（2024年8月時点） | 【会長】<br>長谷川惠一（早稲田大学）<br><br>【本部事務所】<br>早稲田大学 商学学術院<br>長谷川惠一研究室内<br><br>【支部】<br>関東支部、九州支部 | ○学会大会の開催（年1回、自由論題報告、会員総会、統一論題報告・討論等）<br>・2023年度大会<br>・統一論題：ウェルビーイング実現のための余暇ツーリズム<br>○支部大会の開催（年1～2回、研究発表等）<br>○研究部会の開催（ライフスタイル研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、ブライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学生教育研究部会、フードツーリズム研究部会）<br>※2023年度より料飲サービス研究部会を廃止し、フードツーリズム研究部会を新設<br>○学会誌の発行（『余暇ツーリズム学会誌』、年1回）<br>○受託研究<br>○会員の研究活動支援（研究助成制度）<br>○学会賞の授与（2016年～） | 【学会誌】<br>『余暇ツーリズム学会誌』（2014年3月～、年1回）<br>（前身『余暇学研究』1998～2013年、『ツーリズム学会誌』2001～2012年）<br>・2023年度<br>第11号：論文6本、研究ノート10本、基調講演1本、統一論題報告2本 |
| 4 | 一般社団法人日本観光研究学会<br>Japan Institute of Tourism Research（JITR）<br><br>○正会員　1,133名<br>○準会員　1名<br>○名誉会員　10名<br>○賛助会員　3団体<br>○特別会員　7団体<br>（2024年7月4日時点） | 【会長】<br>熊谷圭介（長野大学）<br><br>【事務局】<br>東京都豊島区西池袋4-16-19<br>コンフォルト池袋106<br><br>【支部】<br>関西支部（2003年7月設立）、九州・韓国南部支部（2007年4月設立）、東北支部（2015年3月設立） | ○全国大会の開催（年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等）<br>・2023年度（第38回）大会<br>・シンポジウムテーマ：Inclusion × Tourism<br>○総会の開催（年1回、講演、学会賞表彰、シンポジウム）<br>○研究分科会の設置、助成<br>○研究懇話会（年2回）の開催<br>○支部の活動<br>○学会誌の発行（『観光研究』、年2回）<br>○観光学全集の発行<br>○会務報告の発行（『会務報告』、年2回）<br>○メールニュースの配信<br>○特別研究の助成<br>○学会賞の授与（論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～）<br>○優秀論文賞の授与<br>○図書の監修（『観光学全集』全10巻予定）<br>○観光研究に関する外国諸団体との交流等 | 【学会誌】<br>『観光研究』（1987年～、年2回）<br>・2023年度<br>Vol.35 No.1：論文5本、研究ノート1本、論説1本<br>Vol.35 No.2：論文5本、特集（これからの観光に求められるDXと人材）5本<br>Vol.35 No.3：特集号　第38回全国大会学術論文（査読付き部門）9本<br><br>【大会論文集】<br>『全国大会学術論文集』（1986年～、年1回） |
| 5 | 日本国際観光学会<br>Japan Foundation for International Tourism（JAFIT）<br><br>○正会員　367名<br>○学生会員<br>（大学院生・大学生・短期大学生・専門学校生）　46名<br>○名誉会員　2名<br>○賛助会員　1団体<br>（2024年5月時点） | 【会長】<br>崎本武志（江戸川大学）<br><br>【事務局】<br>東京都千代田区二番町1-2<br>番町ハイム701<br><br>【支部】<br>なし | ○全国大会の開催（年1回、基調講演、研究発表等）<br>・2023年度（第27回）大会<br>・パネルディスカッションテーマ：観光学部・学科学生をどのように業界へと導くか？<br>○例会の開催（研究発表、講演、年5回）<br>○論文集の発行（『日本国際観光学会論文集』）<br>○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催（2003年～）<br>○自由論集の発行（年1回）<br>○テーマ別研究部会による活動（①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な戦跡観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨デスティネーション＆ブライスブランディング、⑩ワーケーション、⑪観光マネジメント）<br>○国内外でのシンポジウム開催<br>○国際観光研修旅行の実施<br>○教科書・学術書の出版<br>○国際観光に関する学術調査及び研究<br>○内外の企業、団体、個人からの委託研究<br>○関連学会、協会との連絡及び交流 | 【学会誌】<br>『日本国際観光学会論文集』（1993年～、年1回）<br>・2023年度<br>第31号：論文8本、研究ノート7本<br><br>『日本国際観光学会自由論集』（2017年～、年1回）<br>・2023年度<br>自由論集Vol.8：19本<br><br>【大会論文集】<br>『全国大会梗概集』（2001年～、年1回発行） |
| 6 | 日本ホスピタリティ・マネジメント学会<br>Japan Academic Society of Hospitality Management（JASH）<br><br>会員数　220名<br>○正会員　209名<br>○学生会員　4名<br>○名誉会員　7名<br>（2024年8月時点） | 【会長】<br>藤井享（豊橋技術科学大学総合教育院）<br><br>【本部／事務局】<br>江戸川大学 社会学部<br>崎本武志研究室内<br><br>【支部】<br>北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部 | ○全国大会の開催（年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パネルディスカッション等）<br>・2023年度（第31回）大会<br>・統一論題：観光工学が支えるホスピタリティ・マネジメント<br>○研究専門部会の開催（適宜）<br>○研究発表会<br>・関東支部研究発表会の開催<br>○学会誌の発行（『HOSPITALITY』、『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』、ともに年1回） | 【学会誌】<br>『HOSPITALITY』<br>（1993年～2012年度：年1回、2013～2015年度：年2回、2016年度～：年1回）<br>・2023年度<br>第34号：論文8本、研究ノート5本<br><br>『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』（2012年～、年1回（2013年は年2回））<br>・2023年度<br>Vol.10 No.1：論文4本 |
| 7 | 観光まちづくり学会<br>The Society of Tourism and Community Design<br><br>○正会員　101名<br>（個人会員98名、法人会員3名）<br>○学生会員　3名<br>○名誉会員　6名<br>（2024年8月時点） | 【会長】<br>深田秀実（小樽商科大学）<br><br>【本部事務局】<br>小樽商科大学 商学部<br>深田秀実研究室内<br><br>【支部】<br>北海道支部（2008年～） | ○役員会、総会の開催<br>○学会誌（『観光まちづくり学会誌 vol.18-21合併号』）の制作<br>○研究大会の企画（基調講演、研究発表、エクスカーション等）<br>○学会賞の検討（学術論文賞・優秀発表賞）<br>○講演会、講習会の企画<br>○調査研究、視察会の企画 | 【学会誌】<br>『観光まちづくり学会誌』（2003年～、年1回）<br><br>【大会論文集】<br>なし（学会誌及び学会のウェブサイトに掲載） |

| | 学会名・会員数（2024年度） | 会長、本部／事務局、支部（2024年度） | 活動内容（2023年度） | 学会誌（機関誌）、大会論文集（2023年度） |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 日本観光ホスピタリティ教育学会<br>The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators（JSTHE）<br><br>○正会員 193名<br>○準会員 8名<br>○特別会員 2団体<br>○名誉会員 3名<br>（2024年8月時点） | 【会長】<br>藤田玲子（成蹊大学）<br><br>【事務局】<br>杏林大学 外国語学部内<br><br>【支部】<br>なし | ○全国大会の開催（年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等）<br>・2023年度（第23回）大会<br>・大会テーマ：ポストコロナのグローバル人材育成を考える<br>○総会・シンポジウムの開催（年1回）<br>○研究会の開催（年2回）<br>○学会誌（機関誌）の発行（『観光ホスピタリティ教育』、年1回）<br>○全国大会発表概要の発行（『全国大会発表要旨集』）<br>○ Newsletterの発行（年2回） | 【学会誌（機関誌）】<br>『観光ホスピタリティ教育』（2006年～、年1回）<br>・2023年度<br>第17号：論文2本、教育実践報告1本、書評1本、全国大会報告、総会報告<br><br>【大会論文集】<br>『全国大会発表要旨集』（年1回） |
| 9 | 観光情報学会<br>Society for Tourism Informatics（STI）<br><br>○正会員 141名<br>○学生賛助会員 19名<br>○ゴールド賛助会員 4名<br>○個人賛助会員 5名<br>○企業・団体会員A 2団体<br>○企業・団体会員B 3団体<br>（2024年8月時点） | 【会長】<br>鈴木恵二（公立はこだて未来大学）<br><br>【事務局】<br>北海道江別市西野幌59番2<br>北海道情報大学内<br><br>【支部】<br>なし | ○全国大会の開催（年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等）<br>・2023年度（第19回）大会<br>・大会テーマ：AI革命と観光の未来<br>○研究発表会の開催（年2回、研究発表、エクスカーション）<br>○観光情報学研究会の開催（さっぽろ、はこだて、かが・のと、たいせつカムイ、ちゅうしこく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう）<br>○学会誌の発行（『観光と情報』、年1回）<br>○学会賞の授与（大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞）<br>○メールニュースの配信<br>○情報提供事業、コンサルティング、活動支援等 | 【学会誌】<br>『観光と情報』（2005年度～、年1回）<br>・2023年度<br>第19巻：特集（観光情報と自然言語処理）3本、学術研究論文2本、研究ノート2本<br><br>【大会論文集】<br>『全国大会講演予稿集』（2004年度～、年1回）、『研究発表会講演論文集』（2009年度～、年2回） |
| 10 | コンテンツツーリズム学会<br>The Academy of Contents Tourism（ACT）<br><br>○正会員 122名<br>うち学生会員<br>（大学院生・大学生） 27名<br>（2024年6月時点） | 【会長】<br>増淵敏之（法政大学大学院）<br><br>【事務局】<br>文教大学 国際学部<br>清水麻帆研究室内<br><br>【支部】<br>なし | ○論文発表大会（年1回、特別講演、論文発表、講評等）<br>・2023年度（第11回）大会・基調講演：「アニメーションにおいて『東京』はいかに表象されているか ー聖地巡礼の可能性ー」岡村民夫（法政大学国際文化学部教授）<br>・論文発表大会<br>○学会論文集の発行（『コンテンツツーリズム学会論文集』）<br>○シンポジウムの開催（年1回）<br>・2023年度基調講演：「韓国で体験したコンテンツとツーリズムの魅力～デジタル化、輸出振興、観光行動～」三根伸太郎（日本貿易振興機構本部企画部総括審議役）<br>・2023年度パネルディスカッションテーマ：韓国コンテンツとツーリズム<br>○研究会（不定期開催） | 【学会誌】<br>『コンテンツツーリズム学会論文集』（2014年度～、年1回）<br>・2023年度<br>Vol.11：シンポジウムの基調講演・パネルディスカッション、論文2本 |
| 11 | 観光学術学会<br>Japan Society for Tourism Studies（JSTS）<br><br>○名誉会員 1名<br>○正会員（一般） 360名<br>○正会員（大学院生） 72名<br>○正会員（シニア） 7名<br>○機関会員 7機関<br>○準会員（学生） 1名<br>（2024年9月1日時点） | 【会長】<br>遠藤英樹（立命館大学）<br><br>【事務局】<br>（有）CR-ASSIST（大阪府）<br><br>【支部】なし | ○全国大会の開催（年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等）<br>・2023年度（第12回）大会<br>・大会シンポジウムテーマ：観光マーケティング研究の新しい動き<br>・フォーラムテーマ：日本における社会学的観光研究の展開<br>○研究集会の開催<br>・2023年度（第11回）研究集会<br>・テーマ：ジェンダーとツーリズム――多角的な視座の探究<br>※研究集会では大学院生育成セミナーをあわせて開催<br>○学会誌の発行（『観光学評論』、年2回）<br>○学会賞の授与（著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞等9種、2013年度～）<br>○図書等の刊行<br>○観光学の研究調査<br>○国内外の学術団体、学会との連絡・交流 | 【学会誌】<br>『観光学評論』（2012年度：年1回、2013年度～：年2回）<br>・2023年度<br>Vol.11 No.2：特集（観光研究とメディア文化研究との交差点）論文3本<br>Vol.12 No.1：原著論文2本、展望論文1本、特集（観光マーケティング研究の新しい動き）論文4本<br><br>【大会論文集】<br>『全国大会発表要旨集』（2012年度～、年1回） |
| 12 | 一般社団法人日本観光経営学会<br>The Japan Society of Tourism Business Research（JSTBR）<br><br>○正会員 143名<br>○準会員 9名<br>（2024年6月時点） | 【会長】<br>西村典芳（流通科学大学）<br><br>【事務局】<br>立命館大学大学院<br>経営管理研究科<br>大島知典研究室内<br><br>【支部】<br>なし | ○研究大会 観光経営カンファレンスの開催<br>・2023年度<br>・第5回シンポジウムテーマ：国内観光産業の再生と創造<br>○学生発表大会 次世代観光経営フォーラムの開催（毎年1月）<br>○研究会<br>・テーマ：アドベンチャーツーリズム | 【学会誌】<br>『観光マネジメント・レビュー "Japan Tourism Management Review"』（2021年度～、年1回）<br>・2023年度<br>4巻：実践研究論文3本、実践報告1本、視察報告2本 |

（注）日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含み観光研究を行う団体を「国内の観光関連学会」として抽出した。日本健康レクリエーション学会は、健康、医療、看護、介護、教育を主な研究領域としていることから対象外とした。

資料：各学会のウェブサイト、各学会への聞き取り調査をもとに（公財）日本交通公社作成（2024年8月時点）

## 表 付記-4　科研費「観光学関連」の総配分額の上位研究機関（2023年度）

| 研究機関 | 採択件数 | 研究種目 | 総配分額（千円） |
|---|---|---|---|
| 大分大学 | 2 | 基盤B：1、基盤C：1 | 21,970 |
| 金沢大学 | 2 | 基盤B：1、基盤C：1 | 13,390 |
| 関西大学 | 2 | 基盤C：2 | 9,490 |
| 芸術文化観光専門職大学 | 2 | 基盤C：2 | 6,760 |
| 國學院大學 | 2 | 基盤C：2 | 7,150 |
| 東京都立大学 | 2 | 基盤B：1、基盤C：1 | 18,070 |
| 広島大学 | 2 | 基盤B：1、基盤C：1 | 13,130 |
| 法政大学 | 2 | 基盤C：2 | 8,320 |
| 明治大学 | 2 | 基盤C：1、若手：1 | 8,580 |
| 山口大学 | 2 | 基盤B：1、基盤C：1 | 16,770 |
| 山梨大学 | 2 | 基盤C：2 | 8,970 |
| 立命館アジア太平洋大学 | 2 | 基盤B：1、若手：1 | 21,190 |

（注）研究期間の開始年度が2023年度で、審査区分が「小区分80020：観光学関連」の82件、また研究概要から判断した「中区分8：社会学およびその関連分野」の1件を対象としている。

資料：科学研究費助成事業データベースをもとに（公財）日本交通公社作成

## 表 付記-3　科研費「観光学関連」等の新規採択研究課題（2023年度～）

| | 研究課題名 | 研究種目 | 研究機関 |
|---|---|---|---|
| 1 | 温泉観光地のレジリエンスを実現する要因分析と持続可能なマネジメントモデルの導出 | 基盤研究(B) | 大分大学 |
| 2 | 本物体験が資源保全とツーリズムの持続性に果たす役割の解明 | 基盤研究(B) | 金沢大学 |
| 3 | 森林浴の癒やし効果を活用した観光資源開発支援:COVID-19後に楽しく観光するために | 基盤研究(B) | 中央大学 |
| 4 | ライフスタイル型移住者の居住地選好からみた地域社会の存立基盤 | 基盤研究(B) | 筑波大学 |
| 5 | 自然観光地における協働型資源管理と基金の活用に関する研究 | 基盤研究(B) | 東京大学 |
| 6 | 観光地域づくり資するイベント・レガシーの戦略的形成に関する研究 | 基盤研究(B) | 東京都立大学 |
| 7 | 観光のリピート動機とリピート行動モデルの構築 | 基盤研究(B) | 一橋大学 |
| 8 | 東アジアの島嶼部における観光の変革－ポストコロナ時代の新たな空間創造を目指して | 基盤研究(B) | 広島大学 |
| 9 | ツーリズムにおける異文化間コンフリクトと創造的対話に関する理論的・実証的研究 | 基盤研究(B) | 北海道大学 |
| 10 | アウトドア観光における共生モデルの研究 | 基盤研究(B) | 山口大学 |
| 11 | Revisiting the Educational Tourism at War Heritage Sites: An Asian Perspective Beyond Dark Tourism | 基盤研究(B) | 立命館アジア太平洋大学 |
| 12 | 災害伝承施設の評価とその施設が観光まちづくりに果たす役割 | 基盤研究(C) | 石巻専修大学 |
| 13 | 効果的な情報発信のための観光地画像に対する感性と色彩、視線の相関分析 | 基盤研究(C) | 岩手県立大学宮古短期大学部 |
| 14 | 野外ミュージアムの特質を踏まえたデータ活用フレームワークの研究 | 基盤研究(C) | 岩手県立大学 |
| 15 | 支払手段の特性が観光等の消費行動に与える影響の実証的研究 | 基盤研究(C) | 大分大学 |
| 16 | 大規模文化財の3次元コンテンツ配信・展示手法 | 基盤研究(C) | 沖縄国際大学 |
| 17 | 持続可能な観光に向けた世界自然遺産地域の気候変動リスク認知評価と適応策の推進 | 基盤研究(C) | 金沢大学 |
| 18 | 南インドの観光現象がもたらす「いきている遺産」と社会の変容に関する研究 | 基盤研究(C) | 関西国際大学 |
| 19 | デジタルノマドによるワーケーションの観光地域づくりへのインパクト | 基盤研究(C) | 関西大学 |
| 20 | 戦後世界における国際観光振興の枠組み形成:復興から開発へ | 基盤研究(C) | 関西大学 |
| 21 | 観光客への津波避難情報の提供方法に関する研究 | 基盤研究(C) | 岐阜聖徳学園大学 |
| 22 | 海外旅行者の感染症に関する情報・リスク認知・予防行動の相互作用:コロナ禍前後比較 | 基盤研究(C) | 岐阜大学 |
| 23 | 農村型コミュニティビジネスモデル:アジアと欧州モデルの比較 | 基盤研究(C) | 九州共立大学 |
| 24 | DMO経営における実践可能なマネジメント手法の提案に向けた理論的・実証的研究 | 基盤研究(C) | 近畿大学 |
| 25 | 演劇祭来訪者の広域観光周遊を促す時限的な言語景観の整備による多文化共生社会の構築 | 基盤研究(C) | 芸術文化観光専門職大学 |
| 26 | イベント観光の時空間的広がり:演劇祭会期中回遊性と会期外再訪意向が生じる仕組み | 基盤研究(C) | 芸術文化観光専門職大学 |
| 27 | 日常との対比からみる「観光食」時空間再埋め込みプロセスの研究 | 基盤研究(C) | 國學院大學 |
| 28 | 域内循環に貢献する宿泊事業の類型と自治体の支援施策に関する研究 | 基盤研究(C) | 國學院大學 |
| 29 | インバウンド誘致パフォーマンスの計測とその評価に関する実証分析 | 基盤研究(C) | 札幌大学 |
| 30 | 観光資源の未知の強み・弱みの把握　- AIによるSNS投稿テキスト分析を軸として- | 基盤研究(C) | 四国大学 |
| 31 | 観光業における食品ロス削減に関する研究　―消費者行動論と行動経済学の視点から― | 基盤研究(C) | 実践女子大学 |
| 32 | 行動変容トリガーの提供による近圏域旅行の潜在需要喚起に関する行動モデルの実証研究 | 基盤研究(C) | 芝浦工業大学 |
| 33 | 「持続可能な観光」に向けた地域経営手法の研究:タイ北部ナーン県の実証分析を通して | 基盤研究(C) | 玉川大学 |
| 34 | 群流データの収集・蓄積と時空間データアーカイブによるスマート観光マネジメント | 基盤研究(C) | 津田塾大学 |
| 35 | ＷＥＢ閲覧中の視線とＡＩを用いた嗜好解析による観光者ごとに適した観光案内の提案 | 基盤研究(C) | 東海大学 |
| 36 | 人の密集回避のための導入が容易な利用者数自動計測システムの開発 | 基盤研究(C) | 東京工科大学 |
| 37 | 観光分野のデジタルプラットフォーマー取引におけるリスクシェアリングに関する分析 | 基盤研究(C) | 東京都立大学 |
| 38 | ユニバーサルツーリズム実現のための下肢障害当事者への方策の課題と策定 | 基盤研究(C) | 東京保健医療専門職大学 |
| 39 | Literary Tourism研究におけるイギリス小説と都市観光 | 基盤研究(C) | 同志社大学 |
| 40 | タイ人の外国旅行記における自民族・対外認識に関する研究 | 基盤研究(C) | 東北学院大学 |
| 41 | タイ国におけるポストコロナ時代の新たな観光実践創出とコミュニティの動態 | 基盤研究(C) | 獨協大学 |
| 42 | eツーリズムにおけるXRの可能性と課題、機会の喪失と平等に関する超学域的研究 | 基盤研究(C) | 富山大学 |
| 43 | 観光対象としての公園・神社での動物飼養に関する研究 | 基盤研究(C) | 奈良県立大学 |
| 44 | 携帯位置情報を活用した広域観光連携策の評価～地域交通の維持改善を中心にして～ | 基盤研究(C) | 南山大学 |
| 45 | 観光従事者における観光客への意識と地域住民としてのサポート意図に関する研究 | 基盤研究(C) | 日本大学 |
| 46 | 包括的な地域課題解決に資するグリーン・ツーリズムの在り方に関する主体論的研究 | 基盤研究(C) | 株式会社農林中金総合研究所 |
| 47 | 観光のエートスから考える観光倫理学 | 基盤研究(C) | 兵庫県立大学 |
| 48 | 現地での観光体験と比較したVR技術による観光体験の特徴の明確化 | 基盤研究(C) | 広島大学 |
| 49 | 伝統工芸産業振興に資するEC空間の構築－メタバースと複合現実の融合－ | 基盤研究(C) | 福岡工業大学 |
| 50 | 観光資源を利用したウェルビーイング活動プログラムの開発と有効性の検証 | 基盤研究(C) | 佛教大学 |
| 51 | ポスト紛争社会と観光:ブレグジット後の北アイルランドの文化活動 | 基盤研究(C) | 法政大学 |
| 52 | ソーシャルネット時代における旅行者の観光価値評価のモデル化 | 基盤研究(C) | 法政大学 |
| 53 | 旅行促進のための虚弱高齢者用バーチャル観光ツアーシステムの開発と心理的影響 | 基盤研究(C) | 北陸学院大学 |
| 54 | フードツーリズムにおける倫理的消費の課題と展望 | 基盤研究(C) | 三重大学 |
| 55 | 日英における鉄道遺構・保存鉄道の再生とヘリテージ・ツーリズムに関する史的研究 | 基盤研究(C) | 明治大学 |
| 56 | 動詞抽出法に基づく内発的観光まちづくりプロトコルの開発 | 基盤研究(C) | 山口県立大学 |
| 57 | ポストコロナにおける持続可能な観光の構築に向けた計量経済学的研究 | 基盤研究(C) | 山口大学 |
| 58 | 優れた眺望視点場の特性に関する研究 | 基盤研究(C) | 山梨大学 |
| 59 | コロナ禍後のワーケーションによる地域・企業・従業員・事業者への影響とKPIの検証 | 基盤研究(C) | 山梨大学 |
| 60 | 地域の回遊性向上からみた屋外遊園地の存在意義に関する研究－地方小都市の比較研究－ | 基盤研究(C) | 横浜商科大学 |
| 61 | 観光における「ヴェネツィア神話」の展開:水都をめぐる表象・言説・実践 | 基盤研究(C) | 立教大学 |
| 62 | 地域語・方言の観光資源化に関する実証研究 | 基盤研究(C) | 麗澤大学 |
| 63 | 創作文化の担い手としてのタイ人インフルエンサーの訪日観光誘致に関する研究 | 若手研究 | 青山学院大学 |
| 64 | オンライン活用による制約緩和が交通需要の発生タイミングに与える影響の実証研究 | 若手研究 | 大阪経済法科大学 |
| 65 | 日系アメリカ人の移動と観光イメージの形成:戦前期二世訪日旅行の観光学的検討 | 若手研究 | 神奈川工科大学 |
| 66 | コンテンツツーリズムから見る被災地観光――宮城県石巻市を事例に | 若手研究 | 国際大学 |
| 67 | 旅行中の計画達成と偶発的体験の観光経験評価への影響-事前計画とセレンディピティ- | 若手研究 | 国士舘大学 |
| 68 | SNSビッグデータを活用した森林キャンプ場のニーズ分析に関する研究 | 若手研究 | 国立研究開発法人森林研究・整備機構 |
| 69 | 自然資産によるインターナル・ブランディングと地域愛着の解明 | 若手研究 | 駿河台大学 |
| 70 | レジリエントな国土縁辺部の観光地構築に向けた地域労働市場研究 | 若手研究 | 帝京平成大学 |
| 71 | Tourism and Disaster Planning in Small Island Communities: How Japan can contribute to other island cities | 若手研究 | 東北大学 |
| 72 | マジョルカ島の観光の回復モデルを社会経済と政策面から検証する | 若手研究 | 比治山大学短期大学部 |
| 73 | 観光列車の導入を踏まえた持続可能で最適な地域公共交通の在り方 | 若手研究 | 北海学園大学 |
| 74 | ポストコロナ時代の観光地開発におけるフィルムツーリズムの役割:北海道を事例として | 若手研究 | 明治大学 |
| 75 | To fly-away or to stay and help? Perceived Destination Exit (PDX) in times of crisis and its effects on future tourist-host relations | 若手研究 | 立命館アジア太平洋大学 |
| 76 | 「従業員を顧客のように扱う」という概念に関する実証的研究 | 若手研究 | 琉球大学 |
| 77 | Muslim-friendly tourism as a pathway for tourism recovery in Japan, post COVID19 | 若手研究 | 和歌山大学 |
| 78 | AIカメラのデータを用いた観光まちづくりのためのデータ地産地消モデルの構築 | 特別研究員奨励費 | 名古屋大学 |

（注）研究期間の開始年度が2023年度で、審査区分が「小区分80020:観光学関連」の78件を対象としている。

資料:科学研究費助成事業データベースをもとに（公財）日本交通公社作成